

雨。浦底から登る。雨は途中しばらく止むが・・・みなさん、慎重な歩調になる。無事**常宮神社**に下山。梅雨時期なので仕方がないとは言え、久しぶりの雨の山歩となった。珍しいトンボソウがあちこちに。やはり植生の豊富な山でいつも何か発見がある。西方ヶ岳のブナ原生林は素晴らしく、毎回超感動。期待通りの山であった。ガスで、あいにく眺望が望めなかったが、(素晴らしい眺望を楽しみた) ぜひ再度挑戦したかった。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日であった。

三等三角点。展望台があるが、ガスで眺望は残念。

### ◆トレッキングの様子



トンボソウ



ドシャブリ・・・だあ。 少し小雨に



チョット一服



サザエヶ岳 685.5m山頂にて



イヌトウバナ



西方ヶ岳の二等三角点



西方ヶ岳 764.1m山頂



常宮のオウム岩で



銀命水



ノギラン



トンボソウ



眺望



### 歴史メモ①◆常宮のオウム岩 (「東遊記」: 京都医者、橋南谿が医学修行のため日本各地を遊覧した際の見聞記)

このオウム岩は宝暦年間(751~764)の発見されたという。これを最初に発見したのは、江戸時代の医者橋南谿(なんけい)の紀行文「東遊記」(寛政7年・1795年刊)である。その中に、30年ほど前、偶然樵夫(きこり)が見つめ、次第に人々の評判になり、若狭候も遊覧したと伝えている。岩の高さは、約20m。横幅30mあり、麓から約3km、七・八合目の所で南に面して露頭している。約25mを隔てて、呼び石という石があり、ここからオウム岩に呼び掛けるとよく答えると言われている。

### 歴史メモ②◆常宮神社: 氣比神宮の奥宮 安産と航海安全の神社

地元では、「お産のじょうぐうさん」と呼ばれ親しまれている。神功皇后が、ここで皇子の応神天皇を安産したことから、安産の神として崇められている。神功皇后は、氣比神宮の祭神・仲哀天皇の妻であるため、常宮神社は氣比神宮と夫婦とされ、常宮神社は奥宮と言われている。毎年7月には、氣比神宮の祭神・仲哀天皇を納めた船神輿が船で海を渡り、神功皇后を祀る常宮神社まで会いに行くというロマンティックな神事が執り行われている。立地条件や神功皇后が三韓征伐に際して、海路の無事を祈願したと伝えることから、航海や漁業の守護神としても信仰されている。

国宝「朝鮮鐘」が奉納されていることでも有名。朝鮮の役における吉綱の見事な軍艦ぶりに「吉綱に百万の大軍の軍配を預けてみたい」と秀吉に言わしめた。この役で持ち帰った「朝鮮鐘」(国宝)は、吉綱の手で慶長二年(1597)に秀吉の命により常宮神社に奉納されたと言われている。